

西条自民
クラブ

川又 由美恵 議員



- (一般質問)
- 1 瀬戸内海における漁獲量の減少について
 - 2 敬老会について

豊かな漁場の

復活に向けて！

問 瀬戸内海における漁獲量は、この10年で一気に減少しており、市内漁業者だけではなく、近隣の漁業者からも漁獲不調の声が聞こえている。穏やかで美しく見える瀬戸内海ではあるが、散乱した大量のごみがマスコミで取り上げられるなど、地球温暖化や海洋汚染などの問題が山積している。更に、水質汚濁の原因とされた窒素やリンが

不足し、瀬戸内海がきれい過ぎる海となったことで、魚が減少しているとも言われている。他にも埋め立てなどにより、魚の生育環境が厳しくなるなど、幾重もの複合的な原因があると思うが、全国の浅海域では、鉄製の爪が付いた道具で海底を耕し、底泥に含まれる栄養塩を海水中に供給する海底耕耘や、魚類のすみかになる構造物を海底に設置する増殖場の整備を行っている事例もある。本市においても、各漁業関係機関とともに原因を究明することがたいせつだと思うが、どのように考えているのか。

答 近年、漁場環境の変化により、漁獲量、漁獲高ともに減少傾向にある。水産資源の回復に向けた取組としては、市内2つの協議会によるガザミなどの種苗放流が実施され、また、漁場環境の改善策としては、西条市藻場づくり環境保全協議会による水産資源の育成に効果のある藻場づくりに取り組んでいる。

水産資源の減少については、

海中の窒素など栄養塩類の減少やヘドロなどが堆積することによる海底環境の変化、気候変動が引き起こす水温上昇などの要因が考えられることから、長期的、広域的な原因究明や対応策が必要だと考えている。海底耕耘などの先進地の事例収集にも努めるとともに、地元漁業者の声を聞きながら、水産業に係る全国的な知見を有する大学や瀬戸内海の環境に詳しい県水産試験場などの研究機関との連携を図り、更なる地先海域の現状分析を踏まえ、地域漁業振興に向けた対策を検討したい。



アサリの種苗放流事業

三好 和彦 議員



- (議案質疑)
- 1 新型コロナウイルスワクチン接種事業について
 - 2 西条市ひと・夢・未来創造拠点複合施設設置及び管理条例について
- (一般質問)
- 1 新型コロナウイルス感染症対策について

抗原検査キット

活用の課題は？

問 新型コロナウイルス感染者における子どもが占める割合が増加する中で、国は、夏休み明けの学校現場での感染が懸念されることを踏まえて、全国の幼稚園や小・中学校に、約80万回分の抗原検査キットを配布することとし、検査対象を原則として出勤後に体調不良となった教職員とした上で、登校後に速や



配布された抗原検査キット

かな帰宅が困難など、事情のある小学校4年生以上の児童・生徒も対象としている。これに対し子どもが自分の鼻に綿棒を入れることに恐怖心を持つなど、うまく検査できないのではないかと、コロナ対策を行っている先生に更なるストレスがかかるのではないかなど、保護者から不安や疑問を投げかける声を聞いている。

抗原検査キットを使用する際の課題としてどのようなことを想定しているのか。また、今後の対応についてどのように考えているのか。